

事項四 日英通商航海条約改締關係一件

一七三 三月十三日 古賀拓殖局長官ヨリ
幣原外務次官宛

英国ニ於ケル一般的最惠国條款ヲ包有スル通

商条約廢棄問題及原料問題ニ関スル件

拓秘第六二一号 (三月十四日接受)

大正八年三月十三日

拓殖局長官法学博士 古賀 廉造(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

客年五月二十二日附通機密合送第一六九号首題ノ件ニ関スル貴信後段英帝国内ヨリ本邦ヘノ戦後各種原料ノ需要額ニ付南滿洲鐵道会社ヨリ申出ノ分ハ曩ニ及通報置候処右ニ関シ今般朝鮮總督府ヨリ英国ニ於テ經濟的管理ノ目的ト為ルコトアルヘク思料セラルル原料品中朝鮮ニ於テハ羊毛ハ從來全然輸入無之棉花ハ從來印度及香港ヨリ極メテ少量ノ輸入アリタルノミニテ又鉄類ハ從來主トシテ英本国ヨリ若干量ノ輸入アリ將來ニ於テモ輸入ヲ要スヘキモノニ有之要スルニ鉄ヲ除キテハ目下ノ処比較的重要ノ關係アルモノ無之

モ若シ將來現実ニ問題發生ノ場合ニ於テハ各種原料ノ需要額等ニ関シ具體的申出ヲ為スコトニ致度旨申越候条御了知相成度此段及回答候也

註 日本外交文書大正七年第一冊四四文書ノ註後段参照

一七四 四月十五日 神野大藏次官ヨリ
幣原外務次官宛

日英關稅協定ニ關スル調査送附ノ件

附屬書 右日英關稅協定ニ關スル調査

附記 日本及印度間通商条約締結ニ關スル日英兩國間交渉經過要領

藏第三七八九号 (四月十六日接受)

大正八年四月十五日

大藏次官 神野勝之助(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

客年八月五日附条機密合送第二五二号ヲ以テ日英通商条約ニ關スル本省ノ意見御尋相成候処關稅協定ニ關シテハ別冊日英關稅協定ニ關スル調査ノ如クニ有之候間茲ニ右調査三

部及御送付候也

(附屬書)

大正八年三月

日英關稅協定ニ關スル調査

大藏省臨時調查局租稅部調査

目次

概説

關稅協定品ノ日英貿易ニ於ケル地位

日英關稅協定ノ得失

日英關稅協定ト内國産業トノ關係

結論

日英關稅協定ニ關スル調査

概説

英国ニ於テハ曩ニ戦後ノ經濟政策ニ対応スル為一般的最惠国條款ヲ含ム通商条約ノ廢棄乃至同條款ノ解釈ニ關シ一種

現在ノ日英關稅協定ハ明治四十四年締結シタル通商航海条約ニ於テ規定セラレタルモノニシテ日本側ニ於テハ英国ノ生産又ハ製造ニ係ル「ベーント」外四品カ本邦ニ輸入セララルニ当リ協定ノ稅率ヨリ多額ノ關稅ヲ課セラルコトナカルヘク又英国側ニ於テハ日本國ノ生産又ハ製造ニ係ル羽二重外九品カ英国ニ輸入セラルルニ当リ關稅ヲ課セラルコトナカルヘキコトヲ約シタルモノナリ即チ本邦カ英国ニ對シ協定シタル物品並其ノ稅率ハ左ノ如シ

稅表番号		國定稅率	協定稅率	差額	差額ノ原価ニ對スル割合
一六六	ベーント				
四 其ノ他					
甲 一箇ノ重量容器共六キログラムヲ超ニサルモノ	每百斤容器共	六圓四〇(三割)	四圓一五	二圓一五(一割)	

二七五	乙 其ノ他	每百斤	四、九五 (三割)	三、三〇	一、六五	一割
二九八	亜麻織糸 一 単撚ノモノ 甲 生ノモノ 乙 其ノ他	同 每百斤	一〇、七五 一一、四〇	八、六〇 (二割) 九、二五 (二割)	二、一五 二、一五	二分五厘 二分三厘
三〇一	綿織物 一 天鵝絨、ブラッシユ其ノ他ノパイル織物(パイルヲ切りタルト否トヲ別タス) 甲 生地ノモノ 乙 其ノ他 七 平織布(別項ニ掲ケサルモノ) 毛織物、毛綿交織物及毛又ハ毛綿ト絹トノ交織物 二 其ノ他	同 同 同	三四、〇〇 (二割) 四〇、〇〇 (二割) 從価一割ノ從量 稅	二五、五〇 三〇、〇〇 從価一割五分ノ從量稅 從価三分五厘ノ從量稅	八、五〇 一〇、〇〇 從価五分ノ從量稅 七厘ノ從量稅	五分 同 五分一六分七厘
四六二	鐵 一 塊及錠 甲 銑鉄 乙 毛綿製ノモノ 四 板 甲 金屬ヲ鍍セサルモノ 甲ノ三 其ノ他	同 同 同	〇、一〇 (五分)	〇、〇八三	〇、〇一七	八厘五毛

イ 厚〇、七ミリメートルヲ超エサルモノ	同	(七分五厘)	〇、三〇	〇、一〇	一分九厘
乙 卑金屬ヲ鍍シタルモノ	同	〇、九〇 (二割)	〇、七〇	〇、二〇	二分一厘
乙ノ一 錫鍍シタルモノ (葉鉄及葉鋼)	每百斤	二、〇〇 (二割)	一、二〇	〇、八〇	八分
乙ノ二 電鍍シタルモノ (波形ト否トヲ別タス)	同	二、〇〇 (二割)	一、二〇	〇、八〇	八分

備考 綿織物毛織物等ノ協定項目ハ多数ニ亘レルヲ以テ取纏メ從価ヲ以テ示シタリ

又英國カ本邦ニ対シ關稅ヲ課スルコトナカルヘキコトヲ約シタル物品ハ左ノ如シ

- 一 染メサル又ハ捺染セサル純絹製羽二重
- 二 染メサル又ハ捺染セサル純絹製羽二重手巾
- 三 銅ノ塊及錠
- 四 麦稈其ノ他ノ材料ヲ以テ製シタル真田
- 五 樟腦及樟腦油
- 六 竹製ノ籠(行李ヲ含ム)及編細工
- 七 藺草製蓆
- 八 日本漆器
- 九 菜子油
- 十 七宝器

此ノ關稅協定カ附屬スル日英通商航海条約ハ千九百十一年

四 日英通商航海条約改訂關係一件 一七四

七月十七日より實施シ、千九百二十三年七月十六日迄効力ヲ有シ右期間満了ノ十二月前ニ兩締約國ノ孰レヨリモ本条約ヲ消滅セシムルノ意思ヲ他ノ一方ニ通告セサルトキハ本条約ハ締約國ノ一方カ其ノ声明シタル日ヨリ一年ノ期間ノ満了ニ至ル迄引續キ効力ヲ有スルモノニシテ本条約實施ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後何時タリトモ兩締約國ノ一方カ此ノ關稅協定稅表中ニ修正ヲ加ヘンコトヲ希望スルトキハ其ノ希望ヲ他ニ通告スルコトヲ得、其ノ通告ノ日ヨリ六月以内ニ商議満足ニ結了セサルトキハ通告ヲ与ヘタル締約國ハ本協定破棄ノ為六月ノ予告ヲ一月以内ニ与フルコトヲ得、而シテ右予告期間ノ終了ト同時ニ本協定ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

關稅協定品ノ日英貿易ニ於ケル地位

日英協定ニ係ル本邦品ノ總輸出額ハ戰前七—八千万円ナリシカ大正五年ヨリ一億円ヲ超エ、内英國ニ対シテ輸出シタルモノ戰前千五—六百万円ナリシカ大正四年ヨリ二千万円以上ニ上リ五年ニハ三千万円、六年ニハ四千万円ニ達シ其ノ割合ニ割内外ナリシモノニ割八分ニ増加セリ、今協定品ノ總輸出額ト對英輸出額トノ割合ヲ示ストキハ左ノ如シ

協定ニ係ル本邦品ノ總輸出額	同上品ノ英國ヘノ輸出額	總輸出額ニ對スル英國ヘノ輸出額ノ割合
大正元年	七六、五三、七五	一六、七七一〇
〃 二年	八四、三六、四三	一六、六三、〇三
〃 三年	七三、八九、九七	一六、二六、一八〇
〃 四年	九八、〇九、四九	二四、〇〇、五九〇
〃 五年	一三三、二九、五九	三三、六三、六三三
〃 六年	一八八、五五、三三	四四、八〇、六三三

更ニ各品ニ付對英輸出ノ狀況ヲ觀察スレハ協定品中羽二重並銅ノ塊及錠ハ其ノ大宗タルモノニシテ又本邦ノ重要輸出品タリ、其ノ對英輸出額ハ羽二重ニ付テハ大正元年ニ四百五十万円、二年ニ七百五十万円ナリシモノ増加シテ四年以後各年共千万円ヲ超エ七年ニハ二千万円ニ上レリ、銅ノ塊及錠ハ大正元、二年ノ年額五百余万円ナリシモノ之亦急増

樟腦及樟腦油	樟腦	樟腦油	竹製ノ籠(行李ヲ含ム)及編細工	行李及靴	蘭草製莖	漆器	菓子油	寶器	計
二・三〇	〇・六三	一・一〇	〇・八三	〇・九四	〇・四二	〇・四九	〇・七九	一・三三	〇・六三
〇・二七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
〇・二七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
〇・二七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
〇・二七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
〇・二七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
〇・二七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
〇・二七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三
〇・二七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇七	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇三

其ノ割合ノ高キモノハ真田中經木真田、竹製ノ行李及靴、菓子油等ニシテ比較的輸出額ノ大ナラサルモノニ之ヲ見、羽二重、銅、麦稈真田等之ニ次ク、羽二重ハ一割七分—二割八分、銅ハ一割五分—三割五分、麦稈真田ハ二割—三割三分ニ當レリ、尚英國ニ於ケル此等日本品ノ輸入額ト總輸入額トノ割合ヲ見ルニ別表ニ示スカ如ク同國統計上ノ区分ハ協定品ト一致セサルヲ以テ精確ナル数字ヲ得ルコト難キモ大体其ノ大勢ヲ窺フヘシ

協定英國品ニ付テハ各品ノ本邦ヘノ輸入額ハ英國ニ於ケル其ノ總輸出額ニ比スレハ別表ニ示スカ如ク割合ニ少シト雖本邦ヘ輸入セラレタル額ハ大正元年ニ於テ二千九百余万

シテ六年ニハ三千万円ヲ超エシカ七年ニハ六百余万円ニ減シタリ、之ニ次クモノヲ真田類及絹製手巾トス、真田類ニ付テハ麦稈真田及經木真田其ノ主ナルモノニシテ麦稈真田ハ大正元年ニ於テ百二十余万円ナリシモノ戰時ニ入リテ數十万円ニ減少セシカ再ヒ百余万円ニ復シ經木真田ハ元年ノ百九十万円ヨリ漸次減少シテ現在ハ二十万円内外ニ下レリ、之ニ次テ菓子油ハ大正元年ニ於テ三十余万円ニ過キサリシカ四年ヨリ百万円ヲ超エ六年ニハ九十余万円ニ、七年ニハ數万円ニ下レリ、其ノ他ハ何レモ大正元年以後百万円ヲ超エタルコトナク樟腦ノ外見ルヘキ額ニ達セス今各協定品ニ付テ其ノ總輸出額ニ對スル割合ヲ見ルニ左ノ如シ

品名	總輸出額ニ對スル英國ヘノ輸出額ノ割合
羽二重	一・七三
絹製手巾	一・八六
銅ノ塊及錠	二・〇六
麦稈其ノ他ノ材料ヲ以テ製シタル真田	二・〇六
麦稈真田	二・〇六
經木真田	二・〇六
其他	二・〇六

円、二年ニ於テ三千二百余万円ニ上リ、中ニ就テ鉄材最多キヲ占メ大正二年ニ於ケル額千五—六百万円ニ達ス、之ニ次クモノヲ綿織物及毛、毛綿織物トス、綿織物ハ七—八百万円、毛、毛綿織物ハ約五百万円ヨリ約八百万円ヲ占ム而シテ此三者ハ協定英國品中ノ大宗タルモノナリ其ノ他「ペ—ント」、亜麻織糸ノ如キハ二十余万円ニ過キス此等物品ノ英國ヨリノ輸入額ヲ本邦ニ於ケル總輸入額ニ比スレバ大体ニ於テ六—七割ヨリ八—九割ヲ占メ近時ニ至リテ他國品ノ輸入加リタル為其ノ割合低下シタリト雖日英貿易上重要ノモノタルヲ失ハス今各品ニ付輸入ノ割合ヲ示セハ左ノ如シ

品名	總輸入額ニ對スル英國ヨリノ輸入額ノ割合
ベ—ン	九・八
亞麻織物	九・九
綿織物	九・九
天鵞絨ブラッシニ類	九・九
平織	九・九
生地ノモノ	九・九
單ニ漂白シタルモノ	九・九
其他	九・九

計板銑鉄	生地ノモノ				毛織物、毛綿交織物				毛綿製ノモノ			
	單ニ漂白シタルモノ	其ノ他	毛製ノモノ	毛綿製ノモノ	單ニ漂白シタルモノ	其ノ他	毛製ノモノ	毛綿製ノモノ	單ニ漂白シタルモノ	其ノ他	毛製ノモノ	毛綿製ノモノ
鉄	九・八一	九・五五	八・六五	七・五五	九・八一	九・五五	八・六五	七・五五	九・八一	九・五五	八・六五	七・五五
銑	六・三二	六・五二	六・三二	六・三二	六・三二	六・五二	六・三二	六・三二	六・三二	六・五二	六・三二	六・三二
板	七・五五	八・五五	七・五五	七・五五	七・五五	八・五五	七・五五	七・五五	七・五五	八・五五	七・五五	七・五五
計	七・五五	八・五五	七・五五	七・五五	七・五五	八・五五	七・五五	七・五五	七・五五	八・五五	七・五五	七・五五

日英関稅協定ノ得失

日本側ニ於テ讓歩シタル稅率ハ前出ノ表ニ示スカ如ク原價ニ對シ「ペーント」ノ三割ヨリ一割ヲ減シタルヲ最高トシ電鍍板ノ二割ヨリ八分、綿織物ノ二割ヨリ五―六分、毛織物及毛綿交織物ノ二割五分ヨリ五分ヲ減シタルモノ之ニ次キ其ノ他ハ何レモ少額ニ過キス此ノ讓歩ニ依リテ關稅收入上受ケタル減額ヲ計算センニ大正元年以來日英協定品ノ輸入狀況ヲ見ルニ開戰後英國ノ生産ニ係ル物品ノ輸入ハ激減シタルニ反シ他國ノ生産ニ係ルモノ増加シテ現在ハ戰前ノ狀況ト大ニ異ナルモノアルヲ以テ戰前ノ額ヲ基礎トスルヲ適當トス而シテ日英協定品ノ總輸入額ハ大正元年ニ於テ三

千八百八十餘万円、二年ニ於テ四千三百三十餘万円ニシテ之カ減收額ハ元年ニ於テ百六十三万円、二年ニ於テ百五十九万円ナリ然レトモ日英協定品中其ノ後伊國ト稅率ヲ協定シタルモノアリテ其ノ減收額ハ元年ニ於テ七万円、二年ニ於テ十万円ナルヲ以テ我國カ特ニ日英協定ノ為ニ受ケタル關稅減收ハ元年ニ於テ百五十七万円、二年ニ於テ百四十九万円ナリ而シテ此等ノ減收額中ニハ他國ノ生産ニ係ル物品ノ日英協定ニ均霑シタルモノアリ此額ヲ差引クトキハ協定ニ係ル英國品ノ輸入額ハ元年ニ於テ二千九百五十餘万円、二年ニ於テ三千二百二十餘万円ニシテ之ニ依ル減收額ハ元年ニ於テ百二十四万円、二年ニ於テ百三十六万円ナリ、此ノ内伊國トノ協定ニ係ルモノハ英國カ我國ト協定セサルモ均霑上利益ヲ受クヘキモノナルカ故ニ之ヲ控除スルトキハ英國カ日英協定ノ為ニ特ニ受ケタル減稅ノ利益ハ元年ニ於テ百十七万円、二年ニ於テ百二十六万円トナル。

英國側ニ於テ無稅ヲ約シタル物品ハ元來無稅品ナルヲ以テ英國ハ之カ為收入上何等ノ損失ヲ受クルコト只無稅ヲ束縛セラレタルモノナルカ故ニ本協定ヲ存続スル限リ此等ノ物品ニ對シテ關稅ヲ設クルコト能ハサルノ不利アルノミ

日英關稅協定ト内國産業トノ關係

先英國ヨリ輸入セラルル協定品ノ我産業トノ關係ヲ考察スヘシ

「ペーント」 従前毎百斤一元三十錢四厘ノ協定アリシカ明治四十四年ノ條約改正ニ於テ小容器入ノモノニ付テハ六円四十錢（從價三割）ノ國定稅率ニ對シテ四円二十五錢ノ協定稅率、其ノ他ノモノニ付テハ四円九十五錢ノ國定稅率（從價三割）ニ對シテ三元三十錢ノ協定稅率ヲ約束シタリ、此等現在ノ協定稅率ハ前協定ノモノニ比シ遙ニ高キカ故ニ我「ペーント」製造業ハ著シク進歩シ其ノ輸入額二百數十万円ナリシモノ漸次減少シテ戰前ニ於テ已ニ二―三十万円ニ減少シ開戰後更ニ十數万円ニ激減シタリ殊ニ開戰後ハ内外ノ需要激増シタルカ為其ノ事業特ニ勃興シ何レモ相當ノ利潤ヲ収メ基礎ノ鞏固トナレルモノ少カラス故ニ協定稅率ノ存スルト否トハ事業ノ消長ニ甚シク影響ヲ有セサルニ至レリ

亞麻織系 本品ノ協定ハ單撚ノモノニ付テ生ノモノノ每百斤十円七十五錢ノ國定稅率ニ對シ八円六十錢（從價一割）、其ノ他ノモノ十一円四十錢ノ國定稅率ニ對シテ九円

二十五錢（從價一割）ノ稅率ヲ約束シタルモノニシテ原價ニ對シテ二分余ヲ讓リタルモノトス。亞麻ノ紡績ハ古クヨリ已ニ相當發達シタリシカ細物ハ未ダ製出セラレス、主トシテ之ヲ英國ニ仰キタリ、糸ハ二―三十万円、織物ハ百万円内外ノ輸入アリシカ開戰後糸ハ輸入ヲ見サルニ至リ織物ハ四―五十万円ニ減セリ而シテ尚外國需要ニ応スルニ至リ大正七年ニ於テ糸ハ約百四十万円、織物ハ二百六十万円ノ輸出ヲ見タリ、要スルニ内地ノ亞麻紡績業ハ開戰後多大ノ發展ヲ為シ基礎モ鞏固トナレルモノノ如ク現在ノ協定稅率ヲ存続スルモ別段支障ナキモノト認メラル。

綿織物 天鰲絨等ノ「パイル」織物ニ付テハ二割ノ國定稅率ニ對シ一割五分稅ヲ、平織布ニ付テハ二割ノ國定稅率ニ對シ一割五分乃至一割三分ノ協定ヲ為シタルモノニシテ此等綿織物ノ前協定稅ハ一割稅ナリシヲ以テ大体ニ於テ五分引上ケラレタルモノトス、而シテ綿織物輸入ノ狀況ヲ見ルニ明治四十四年ノ條約改正前ニ當リテハ數年ニ亘リ綿織物ノ全輸入額ハ千三百四十萬圓乃至千七百八十萬圓ヲ昇降セシカ大正元、二年ニハ千萬元内外ニ減シ三年以後年額三百餘萬元乃至五百餘萬元ニ下レリ、更ニ各品ニ付テ見ル

トキハ生金巾及生「シーチング」ハ条約改正前五―六百万ヨリ七百万円ノ輸入アリシモノ大正元、二年ニハ百余万円、七年ニハ僅カニ二万余円ニ減シ漂金巾及漂「シーチング」モ百数十万円ナリシモノ現在ハ六十余万円ニ下レリ、更紗ハ百数十万円ナリシモノ元年ニハ四十余万円、二年ニハ九万円ニ減シ最近両三年ニアリテハ一―二万円ノ輸入アルニ過キス、其ノ他綿「フランネル」、塞冷紗、色金巾及緋金巾、綾金巾及雲齊布等相当輸入アリシモノナリシカ条約改正前或ハ其ノ後ニ於テ減少ヲ来タシ現在ノ輸入ハ挙ケテ数フルニ足ラス而シテ尚相当輸入額ヲ維持スルモノハ七年ニ付テ漂金巾及漂「シーチング」並綿天鵞絨ノ六十余万円、綿帆布ノ百余万円、綿「イタリアンス」及綿縞子類ノ百八十余万円ナリトス。

綿織物ノ事業ハ已ニ古クヨリ発達ノ運勢ヲ有シ日清日露兩戰役後稍見ルヘキ膨脹ヲ為シ明治四十四年ノ条約改正ニ於ケル協定税率ノ引上ニ依リテ特ニ助長セラレ少カラス輸入ヲ防遏シタルノミナラス輸出モ大正元年ニ於テ二千五百余万円、二年ニ於テ三千三百余万円ニ達シタリ、其ノ後開戰トナリ英品ノ輸入困難トナルヤ顯著ナル發展ヲナシ輸入ハ

物ノ輸入、内地生産ノ状況等ハ綿織物ト略径路ヲ同フスルモ其ノ後進タルノ感アリ、

毛織物類ノ輸入ハ明治三十八―九九年ノ交ニ於ケル二千万円内外ヲ最高トシテ爾來年々千万円内外ヲ昇降セリ此ノ間内地ニ於テハ「フランネル」「モスリン」等ノ製織ハ大ニ発達シテ輸入ヲ防遏シ四十四年ニ至リ協定税率カ従前ニ比シ約倍額ニ引上ケラレシヨリ一般ニ一段ノ進歩ヲ示シ羅紗等普通品ハ殆ント内地品ヲ以テ需要ヲ充タスニ至リシモ特殊品ハ尚之ヲ外国殊ニ英國ニ仰キタリ之亦開戰後輸入難トナルヤ益好況ヲ呈シ輸入ハ年額数百万円ニ下ルニ至レリ一方「モスリン」、羅紗「セルヂス」「ブランケット」等少額ノ輸出ヲ見シカ開戰ト共ニ外國ノ軍需注文又ハ一般需要ノ増加ニ依リテ其ノ輸出総額ハ大正五年六年共千万円ヲ超エ七年ニハ二千二百万円ニ達セリ要スルニ毛織物事業ハ近來概シテ著シク発達シタルモ或品種ニ止マリ羅紗類中特殊品ハ尚輸入ヲ要スヘク戰時中増進シタル輸出モ時局後ニ於テハ此ノ好況ヲ持續スルコト能ハサルヘシ而シテ協定税率ニシテ撤廃セラルルニ至レハ迅速ニ事業ノ進歩ヲ促進スヘシト雖戰時中稍事業ノ基礎ヲ鞏固ニシタルヲ以テ之ヲ存続スル

前記ノ如ク衰退スルト同時ニ輸出ハ衝天ノ勢ヲ以テ増進シ大正四年ノ三千八百万円ヨリ漸増シ七年ニハ無慮二億三千万円ニ達セリ綿「イタリアンス」及綿縞子類ノ如キ尚相当ノ輸入額ヲ維持スト雖内地ニ於ケル製織ハ戰時中著シキ発達ヲ為シタリ、本品ハ洋傘ノ原料トシテ使用セラルルモノニシテ洋傘ノ輸出増加ト毛縞子ノ代用トシテ需要ヲ喚起シタルカ為輸入ヲ増加シ英独伊等ノ諸國ヨリ仰キタルモノ大正元年ニ於テ三百十余万円(千三百七十余万碼)、二年ニ於テ三百四十余万円(千五百八十余万碼)ナリシカ開戰後其ノ機織ハ急激ノ進歩ヲナシ主要工場ノ製出高ハ大正五年ニ於テ七百二十三万碼、六年ニ於テ千三百五十万碼ニ上レリ而シテ技術モ相当進歩シ外品ニ比シ耐久力等ニ於テ遜色ナキニアラサレトモ外觀ハ殆ント區別シ難キニ至レルヲ以テ輸入ヲ防遏スルモ遠キニアラサルヘシ要スルニ綿織物ノ事業ハ現行協定ノ下ニ於テ大体外品トノ競争ニ耐ヘ得ヘキ見込ナルヲ以テ之ヲ存続スルモ些シタル害ナキモノト認メラル、

毛織物及毛綿織物 本品ハ其ノ一部ヲ除キ二割五分ノ国定税率ニ對シテ二割ノ協定ヲ為シタルモノトス、此等織

モ大ナル故障ナカルヘシ

鉄類 鉄類中協定ヲ為シタルモノハ銑鉄、薄板、葉鉄及葉鋼、電鍍板ニシテ銑鉄ニ付テハ每百斤十錢(從価五分)ノ国定税率ニ對シテ八錢三厘ノ協定ヲナシ、薄板ニ付テハ四十錢(從価七分五厘)ニ對シテ三十錢ノ協定ヲナシ、葉鉄及葉鋼ニ付テハ九十錢(從価一割)ニ對シテ七十錢ノ協定ヲナシ、電鍍板ニ付テハ二円(從価二割)ノ国定税率ニ對シテ一円二十錢ノ協定ヲナシタルモノトス、此等ノ協定ト前協定トヲ比較スルニ前協定ハ銑鉄ハ八錢三厘、薄板中鉄及軟鋼ハ每百斤二十九錢六厘、鋼ハ從価七分五厘又葉鉄及葉鋼ハ六十九錢一厘ナリシヲ以テ此等ノ協定ハ前協定ト殆ント同一ニシテ只異ナルモノハ電鍍板ノ前協定每百斤七十四錢カ一円二十錢ニ引上ケラレタルノミ、而シテ此等協定品ノ輸入並生産ノ狀況ヲ見ルニ左ノ如シ

(一)銑鉄 本品ノ輸入ハ明治四十四年ニ於テ十九万噸ナリシカ大正二年ニハ二十六万噸ニ増加シ三年四年ニハ戰爭ノ為英其ノ他歐品ノ輸入難トナリテ十六万噸ニ減シ五年六年ニハ支那、英領印度、米國等他方面ヨリ増入シテ二十万噸トナレリ、而シテ内地ノ生産ハ明治四十四年ニ於

テ二十余万匁ニシテ輸入ト殆ソド同額ナリシカ戰時ニ入リテ特ニ増進シ六年ニハ四十八万匁ニ達セリ、此等ハ製鉄所其ノ他民間主要製鉄工場ノ拡張セラレタル外大小工場ノ新設セラレタルニ依ルモノトス、然レトモ内ニハ生産費割高ノモノアリテ鉄価下落シタルカ為已ニ事業ヲ減縮スルノ已ムナキニ至レルモノアリテニ保護ノ方法ヲ立ツルニ非サレハ尚鉄価ノ下落ニ伴ヒテ衰替スルヲ免レザルヘシ

(二) 薄板 厚〇・七三「ミリメートル」ヲ超エサル薄鉄板ハ電鍍板ノ原料煙突其ノ他広ク雜用ニ使用セラレ又特殊品ハ発電機其ノ他諸機械ノ材料ニ供セラル、其ノ輸入額ハ大正元年ニ於テ二万匁ナリシカ年ヲ逐フテ増加シ五年六年共ニ三万匁ヲ超ユルニ至レリ、製鉄所ニ於テハ之ヲ製出シツツアレトモ他ニハ未タ製出ヲ見ス只其ノ製造計画アルノミ、

(三) 葉鉄及葉鋼 本品ノ輸入年額ハ明治四十四年以来大正五年ノ三万九千匁ヲ除キ各年共ニ二万五十一千六千匁ヨリ二万九千匁ノ間ニアリ、戰前ハ専ラ英品ヲ入レタリシカ現在ハ主トシテ米品ニ依レリ、本品ハ未タ内地ニ製出セラレ

セラレタルモノハ物価昂騰ノ為多額ノ固定資本ヲ投シタルモノアルヘク此ノ如キモノニ對シテハ相当税率ノ引上ヲ要スヘシト雖鉄ノ如キ基礎原料ハ可成價格廉ナルヲ要シ關稅ノ加重ヲ行フカ如キハ喜フヘキ作用ニアラス此ク見來レハ鉄ノ協定ハ今急ニ之ヲ撤スルノ必要ナキカ如シ、尚薄板葉鉄及葉鋼、電鍍板ハ生産費未定ニシテ如何ナル程度ノ關稅ノ下ニ外品ノ競争ニ對抗シ得ヘキヤ否ヤ不明ナルヲ以テ今各種ノ場合ヲ推測スルニ(一)此等ノ製造力現行協定税率ノ下ニ成立スルモノナルトキハ協定税率ノ存否ヲ論スルノ要ナク(二)甚シク關稅ノ引上ヲ要スルモノナルトキハ關稅作用ノ外ニ於テ保護ノ途ヲ立ツルヲ可トスルヲ以テ此ノ場合ニ於テモ協定税率ノ撤否ヲ論スルノ要ナシ(三)各品カ國定税率程度ノ保護ニシテ成立スルモノナルトキハ少許ノ引上ニ止マルヲ以テ他事業ニ影響ヲ及ホスコト少ナルヘク又其ノ國定税率ハ之ヲ實際ニ適用スヘキモノトシテ定メタルモノナルヲ以テ其ノ作用ニテ保護スルヲ可トシ協定ノ撤廢ヲ要スルコトナルヘシ然レトモ目下鉄価ノ暴落ニ遇ヒテ危險ニ瀕セル製鉄業ニ関シ一般ニ唱フル救済策ヲ見ルニ内地生産費ハ割合ニ

ス、只官民工場ニ於テ製造ノ計画アルノミ、
(四) 電鍍板 電鍍板ノ輸入ハ明治四十四年ノ四万三千余匁ヨリ大正元年ノ五万二千余匁ヲ最高トシテ二年ニハ三万四千余匁トナリ之ヨリ漸減シテ大正七年ニハ二千余匁ニ下レリ、専ラ英ヨリ輸入シタリシカ現在ハ米品多キヲ占ム本品ハ從來製鉄所ニ於テ製出シ又民間ニ於テハ薄板ニ電鍍ヲ行フモノアリシカ戰争ノ為後者ノ事業著シク發達セリ一面ニハ薄板ヲ製造シテ電鍍ヲ行ハントスルモノ計画ニアリ

右協定ニ係ル鉄材中内地ニ生産セラレサルモノハ葉鉄及葉鋼ノミニシテ他ハ何レモ生産セラレツツアリト雖其ノ見ルヘキモノハ鉄ノミニナリ、鉄ハ戰時中新設又ハ拡張セラレタル鉄工場ニシテ完成スルトキハ現下ノ需要ヲ充タシ得ルニ至ルヘク薄板、葉鉄及葉鋼、電鍍板モ亦自給シ得ルニ至ルヘキ計画ナルカ如シ然レトモ經濟上此等カ外品ニ對シ競争シ得ヘキヤ否ヤ疑問ニ屬ス、当局ノ意見未定ナルカ故ニ私見ヲ以テスレハ今仮リニ關稅ヲ以テ保護スルモノトセンカ鉄ニ關シテハ戰前已成ノ工場ハ現行税率ノ下ニ經營シ得ヘキコト明瞭ナルモ開戰後設立

高キヲ以テ關稅以外ノ作用ニ依リテ保護スルヲ可トスルカ如ク即チ第二ノ場合ニアルモノノ如シ、依テ鉄ニ關スル日英協定モ差當リ其ノ撤廢ヲ要スルコトナキカ如シ。以上ハ英國品ト本邦産業トノ關係ニ付テ觀察シタルモノナルカ英國側ニ於テ約シタル協定品ハ何レモ本邦ノ特產品ニシテ英國ニ生産セラレサルモノ多ク而カモ絹製手巾、竹製ノ籠及編細工、蘭草製蓆、漆器及七宝器ヲ除クノ外ハ何レモ原料用ノモノナルヲ以テ英國ノ産業ヲ害セサルノミカ銅ノ塊及錠、麦稈等ノ真田、樟腦及樟腦油、菜子油ノ如キ寧ロ其ノ輸入ヲ喜フヘキ關係ニアルカ如シ

結 論

日英協定ノ為ニ日本側カ蒙レル損害ハ關稅收入ニ於テ戰前百五十六万円ニシテ英國カ之カ為ニ受ケタル利益即免レタル税金ハ百二十万円ナリ而シテ英國側ニ於テハ単ニ本邦品ニ對シテ無稅ヲ約シタルモノナルカ故ニ關稅上毫モ失フ所ナク只關稅ヲ設ケ得サル苦痛アルノミ、之ヲ換言スレハ日英協定ナルモノハ英國品ニ對シテ百余万円ノ税金ヲ輕減シタルニ對シテ単ニ本邦品ノ為無稅ヲ約セシメタルモノトス、蓋シ英國ノ關稅制度カ自由貿易主義ニ依レルモノナル

ニ依リ從來ノ國際關係上已ムヲ得ス是ニ出テタルモノナルヘシ

日英協定存廢ノ利害ニ関シテハ兩國力關稅上受ケツツアル得失ノ外兩國ノ貿易、産業狀態等トノ關係、兩國力將來執ラントスル關稅政策等ニ依リテ決セラルヘキモノナリ、協定英國品ハ「ペーント」ヲ初メトシテ綿織物、毛織物、毛綿織物、鉄類等何レモ同國ノ重要輸出品ニシテ其ノ英國ヨリ本邦ニ輸入セラルル額ハ英國ノ輸出額ニ比スレハ僅少ナリト雖本邦ニ於ケル其ノ總輸入額ニ比スレハ割合ニ多キヲ占ムルモノナルカ故ニ对本邦貿易上同國ノ重キヲ置クモノトス、之英國力日英協定ヲ尊重スル所以ナリ、之ニ對シテ本邦品ノ英國ニ輸出セラルル額ノ其ノ本邦輸出總額ニ比シ割合ノ高キモノハ経木真田、竹製ノ行李及鞆、菓子油ノ如キ類ニシテ而モ其ノ割合ノ高カリシハ過去ニ属シ現在ハ大ニ下レリ、重要輸出品タル羽二重、絹製手巾、銅、麦稈真田等ハ大体二―三割ノ間ニアリ尚此等ヲ英國ニ於ケル其ノ總輸入額ニ比スルニ羽二重ハ絹織物ノ輸入額ニ對シ、絹製手巾ハ絹又ハ其ノ交織製品ノ輸入額ニ對シ兩者共一―二割ニ當リ銅モ亦一―二割ニ當リ、真田類ハ四―五割ヨリ六割

協定ハ英國力將來ニ於テモ現在通り自由貿易主義ヲ持續スル場合ニハ日本ニ採リテハ何等現実ノ利益ナキモノナルモ万一英國力將來其ノ關稅制度ヲ變更スル場合アリトセハ之ヲ存続セシムル必要アルモノトス

英國ニ於ケル開戰以來ノ態度ヲ見ルニ當時英國人ハ經濟上独逸勢力浸潤ノ甚大ナリシニ覺醒シ戰時中独逸兩國内ニ蓄積セラレタル製品ノ戰後ニ於テ投売セラレンコトヲ恐レ之ニ對スル準備策ハ世間ニ論議スル所トナリ一般思潮ハ保護ニ傾キ又英本國ト植民地トノ結合ヲ固クセントスルニ一致セルカ如クナリシ、最近総選舉前自由党中首相擁護派及統一党ハ大会ヲ開キタリ其ノ統一党大会ニ於テ朗読セラレタル大藏大臣宛首相ノ書簡ニ依レハ兩党提携ノ基礎タルヘキ共通政綱中經濟政策ニ関シテハ左ノ如シ

(一)帝國會議ノ決議ニ從ヒ現在將來ノ關稅ニ特惠主義ヲ適用ス

(二)食糧品ニハ輸入稅ヲ課セス但シ現ニ課稅シツツアル茶、珈琲等ニ對シテハ帝國特惠ヲ適用ス、此ノ問題ハ穀物生産法案ニ依リ大部分解決セラレタル処ナルモ更ニ今日獲得セル農業上ノ地位ヲ維持スル事ハ最大目的ノ一トスル

ノ多キヲ占ムレトモ協定外ノ麻製真田多キニ依ルモノナルヘシ、斯クテ我重要輸出品ニシテ協定ニ係ルモノノ額ハ割合ニ少シト雖其ノ實額ニ付テハ輕視スヘカラサルモノナリ産業トノ關係ニ付テハ前已ニ各品ニ付テ詳述セルカ如ク前協定ノ時代ニアリテハ我工業ハ未タ進歩セス協定稅率ノ下ニ輸入シ來レル外國品ノ圧迫ヲ受ケタルコト少カラサリシカ明治四十四年ニ至リ現在ノ協定稅率之ニ代ハルヤ割合ニ保護ヲ受クルコトトナリ当業者ノ努力ト相俟チテ相当ノ進歩ヲ為シ殊ニ「ペーント」、亜麻紡績、綿織物、毛織物等ノ事業ノ如キハ顯著ナル發達ヲ遂ケタリ、戰時ニ入ルヤ之ニ加ヘテ輸入難ハ一層ノ保護ヲ与フルコトトナリ事業ノ基礎鞏固トナルヲ以テ此等物品ニ對スル協定稅率ノ存在ハ齒牙ニ懸クルニ足ラサルニ至レリ然レトモ製鉄業ニ付テハ前記諸事業ニ比スレハ大ニ趣ノ異ナルモノアリ戰時中勃興シタル本業ハ再び旧態ニ戻ラントスル形勢ヲ呈セシカ之カ救済策ハ關稅作用以外ニ求メントスルカ如ク從テ製鉄業ニアリテモ協定稅ノ存否ハ其ノ進歩ニ關係ナキカ如クナレリ、而シテ英國側ニ於テモ協定ノ為ニ産業等ノ關係ニ於テ障害ヲ受ケ居ラサルコト前已ニ記スルカ如シ之ヲ要スルニ日英

処ナリ此ノ目的ヲ達スルカ為ニハ輸送ノ改善其ノ他ノ方法ヲ講セサル可ラス

(三)Key Industryノ保護

(四)生産ノ現狀ヲ維持シ更ニ極度ノ發達ヲ期スル為ニハ投売等不正ノ競争ニ對シ保護セサル可ラス

(五)是等諸問題解決ニ當リテハ戰前ノ見解又ハ言說ニ捕ハルル処ナク新ナル見識ヲ以テ生産並分配ノ改善ニ付テモ自由貿易又ハ關稅改革等ノ理論ニ拘泥セス目的到達上最良ノ良法ト信スル処ニ拠ラサル可ラズ

是ニ由リテ之ヲ觀レハ英國ノ戰後ニ処スル政策トシテハ大体食料品ノ如キモノニハ課稅セス緊要ナル工業(キ―、インダストリー)ヲ保護シ又英帝國內ニ特惠制度ヲ適用セントスルニアルモノノ如シ、之ニ對シテ協定本邦品ノ如何ニ待遇セラルルニ至ルヘキヤヲ推測スルニ英國ニ於テ協定本邦品ト衝突スヘキ製造事業ハ「キ―、インダストリー」ニ属スルモノトシテ認ムル能ハサルノミナラス絹製手巾、竹製ノ籠及編細工、蘭草筵、漆器、七宝器ヲ除クノ外ハ原料品ニシテ寧ろ英國ニ於テ歡迎スヘキモノノ如ク見ユルヲ以テ此等ニ對シ關稅ヲ設クルカ如キコトナカルヘシト信セラ

ル、第二ニ考慮スヘキハ英帝国内ニ採用セントスル特惠制度ニアリ此ノ方法ニ付テハ種々アルヘク又英本国ノミナラス英國植民地ニ対スル一般輸出品、又羊毛、棉花、錫、亜鉛、護謨其ノ他各種原料品ノ獲得等ヲ考慮スルトキハ其ノ関スル所頗ル広汎ニ亘ルヲ以テ単ニ協定品ノ英國植民地ヨリ輸入セラルルモノトノ競争関係ヲ見ルニ本邦羽二重ノ英國ニ輸入セラルル額ハ絹織物ノ総輸入額ニ比スレバ僅ニ一―二割ニ過キササルモ印度其ノ他ノ英領地ヨリ輸入セラルルモノノ僅少ナルニ比スレハ頗ル優勢ノ地位ニアリ殊ニ羽二重ハ本邦獨特ノ織物ナルヲ以テ無競争ノモノト認ムヘク羽二重手巾モ亦同様ノ状態ニアリ、麦稈其ノ他ノ材料ヲ以テ製シタル真田ハ英國ノ統計上各種ノモノヲ包含シ居ルカ故ニ正確ニ説明スルコト難シト雖諸國ヨリ輸入セラルルモノ甚タ多ク竹製ノ籠及編細工ト同様英領地ヨリ輸入セラルルモノハ誠ニ僅少ナルヲ以テ此ノ両品モ英領産ト競争ナキモノト認ムヘク漆器、樟腦及樟腦油ハ其ノ本邦特産品ナルヨリ見テ又英領産ト競争ナキモノト推スルヲ得ヘシ其ノ他菓子油モ英領地ヨリ輸入セラルルモノ甚タ少ク七宝器ノ如キ美術品ナル名称ノ下ニ統計セラレ其ノ輸入関係不明ナルモ

重要ナルモノニアラス

銅ニ付テハ趣ヲ異ニシ英國ニ輸入セラルル総額ハ頗ル多ク本邦銅ノ額ハ戰前其ノ一割ニ充タス又濠洲其ノ他ヨリ輸入セラルルモノニ比シ三分ノ一二モ及ハサルヲ以テ本邦銅ハ英領產ト競争ノ地位ニアルモノノ如ク又蘭草製蘆ニ付テモ敷物ナル名称ノ下ニ印度、香港其ノ他ノ英領地ヨリ輸入セラルルモノ相當ニ多シ、其ノ香港ヨリ入ルモノハ恐ラク支那製ノ蘭筵ナルヘシ、印度ヨリ入ルモノハ其ノ種類ヲ同フスルヤ否ヤ明ナラサレトモ敷物トシテ競争ノ地位ニアルモノト認メサルヲ得ス

斯クノ如クシテ協定本邦品ノ英領産ト競争ノ地位ニ立ツヘキモノハ銅ト蘭草菸トノ二種ナルカ如シ而シテ本邦銅ノ英國ニ輸入セラルル額ハ相当大ナルヲ以テ差別待遇ヲ受クルニ至レハ貿易上影響ヲ受クルニ至ルヘシ然レトモ銅ハ原料品ニ属シ尚其ノ戰前ニ於ケル英國輸入ノ狀況ヲ見ルニ千九百十二年及千九百十三年ノ平均ニ於テ濠洲其ノ他ノ英領品ハ総輸入額ノ約二割ニ過キサルヲ以テ特ニ濠洲等英領品ノ為ニ多額ノ原料品ヲ虐待スルノ策ニ出テサルヘク英領品ヲ優遇セント欲セハ他ノ組織ニ途ヲ求ムルヤモ知ルヘカラス

斯ク觀察シ来レバ、英國カ将来採ラントスル政策ハ現在ノ日英協定ト矛盾スルコトナクシテ遂行スルヲ得ヘキカ如ク而シテ英國ハ現在協定ノ為ニ利益ヲ受ケツツアルモノナルヲ以テ之ヲ破棄スルノ方法ニ出テサルカ如ク見ユ果シテ英國将来ノ施設ニシテ協定本邦品ニ惡待遇ヲ与ヘサルモノナル

トキハ本邦ハ協定ノ為ニ若干ノ損失ヲ受ケツツアルヲ以テ進シテ之ヲ破棄スルヲ可トスルモ英國ノ戦後ニ対スル政策ハ未タ明瞭ナラサルモノアルカ故ニ両國ノ親交ニ鑑ミ我ヨリ之ヲ撤スルノ策ニ出テスシテ暫ラク尚英國ノ態度ヲ觀望スルニ若カズ。

(一) 日英協定ニ係ル本邦輸出品ノ英國ニ於ケル総輸入額及本邦品ノ輸入額

(英國貿易表ニ拠ル)

品名	單位	總輸入額				
		一九二一年 (大正元年)	一九二三年 (一九一二年)	一九二四年 (一九一三年)	一九二五年 (一九一四年)	一九二六年 (一九一五年)
		一九二六年 (一九一六年)	一九二七年 (一九一七年)	一九二八年 (一九一八年)	一九二九年 (一九一九年)	一九三〇年 (一九二〇年)
絹織物 (羽二重ハ本項ニ含マルルモノト認ム)	碼	七六、五二、七三	八〇、二六九、四四四	六三、六三三、六七二	七六、二一、五八六	五六、四六三、八三三
絹又ハ絹ト他ノ材料トノ交織物製品 (羽二重手 ハ本項ニ含マルルモノト認ム)	碼	七三、〇〇六、六四〇	七五、五六〇、三八	五九、〇〇〇、八三三	六八、四九三、一五六	五四、三八八、三四四
銅ノ塊及錠	噸	七、四六七、三三一	六、三五四、四二	五、七八、三七	六、三三三、二八三	四八七三、四四五
表釋其ノ他ノ材料ヲ以テ製シタル真田	噸	九二、八六二	一四四、六六六	一四七、七二四	一七四、九〇四	一〇八、二二
化学薬 (特掲セサルモノ) (樟腦ハ本項ニ含マル ルモノト認ム)	封度	五五、三三三、九九三	七一、七六六、七六	八九、〇五五、一三五	二九、三五四、七七八	二七、五五五、六五五
揮発油 (天然ノモノ) (樟腦油ハ本項ニ含マル モノト認ム)	封度	一六、八〇〇、一一五	一〇、三九六、九一	七、四八八、〇三	七、三三三、七七五	八、一二六、四四五
延	圓	一四、〇八六、八九六	九三、一、三七	七、三四九、九八七	九三、二五、六六九	九八三七、六九七
木製品 (漆器ハ本項ニ含マルルモノト認ム)	圓	二、九六七、七五四	一四、五七七、六七六	一三、四八六、九七九	三四、九五六、八六一	七三、三三、七五五
籬及編細工	圓	一、九二九、二八六	二、三三三、三四八	二、二八六、六九六	二、七五五、一〇九	二、五四六、三九九
	圓	四、〇九八、三三三	五、四三三、三六	五、〇二八、八四九	五、九六八、三七六	六、一八七、六六
	圓	二、二〇五、三〇五	二、三四六、三三九	一、六六九、六五〇	一、九〇七、九七三	一、四六二、八四四
	圓	一、七七〇、〇五一	二、〇〇〇、六三五	一、八四九、五〇三	一、九三三、三八	二、九九七、〇五五
	圓	二五、九八一、五四〇	三、〇〇〇、二六九	二二、〇五七、一五四	二二、六二七、四六九	一八、四三三、八五八

品名	単位	日本	ヨリ	ノ	輸入額	元	二	三	四	五	六	年
菜子油	噸	八、三〇〇	二、四六六	三、八八	七、五九九	六八六二	一、九四四	六五五	二、四四五	〇七五	二、九九九	五九六
美術品 (七宝器ハ本項ニ含マルモノト認ム)	円	一、六三三	一、四九	一、九六八	〇二六	一、三九六	四四〇	六四五	〇二一	四四五	五二	四四、五二
計		三、三〇五	三、四九	三、四六六	〇三七	一〇、二二三	二、八九六	〇三八	三、〇三	二、九二	二、九二	四

品名	単位	日本	ヨリ	ノ	輸入額	元	二	三	四	五	六	年
絹織物	円碼	一六、四四一	二、六八〇	三、三三六	八、七〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
絹又ハ絹ト他ノ材料トノ交織物	円	八、三〇一	二、〇〇八	三、三三六	八、七〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
銅ノ塊及錠	円噸	四、七五一	五、八六一	七、三三	一、七三三	七、九六三	〇・七三	〇・八二	〇・四〇	一・〇〇	〇・八三	〇・八三
麥稈其他ノ材料ヲ以テ製シタル	封度	八、三〇一	二、〇〇八	三、三三六	八、七〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
眞田	封度	六、五七六	八、五七	五、〇三六	一、〇三六	五、八八	〇・六二	〇・四八	〇・二〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇
揮發油	円	八、五七六	八、五七	五、〇三六	一、〇三六	五、八八	〇・六二	〇・四八	〇・二〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇
龍及編細工	円	二、二八四	四、七四	五、〇三六	一、〇三六	五、八八	〇・六二	〇・四八	〇・二〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇
蕈製	円	五、五七六	五、五七	三、〇三六	一、〇三六	五、八八	〇・六二	〇・四八	〇・二〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇
木製	円	四、七五一	五、八六一	七、三三	一、七三三	七、九六三	〇・七三	〇・八二	〇・四〇	一・〇〇	〇・八三	〇・八三
菜子油	円噸	一、一八四	二、七三六	三、八八	七、五九九	六八六二	一、九四四	六五五	二、四四五	〇七五	二、九九九	五九六
美術品	円	三、三〇五	三、四九	三、四六六	〇三七	一〇、二二三	二、八九六	〇三八	三、〇三	二、九二	二、九二	四
計		三、三〇五	三、四九	三、四六六	〇三七	一〇、二二三	二、八九六	〇三八	三、〇三	二、九二	二、九二	四

(二) 日英協定ニ係ル英國品ノ同国ヨリノ總輸出額及本邦ヘノ輸出額

(英國貿易表ニ拠ル)

品名	単位	日本	ヨリ	ノ	輸出額	元	二	三	四	五	六	年
塗料及材料	日本へ輸出額	三、一八七	三、一八七	三、一八七	三、一八七	三、一八七	三、一八七	三、一八七	三、一八七	三、一八七	三、一八七	三、一八七
亜麻織糸	日本へ輸出額	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六
綿織物	日本へ輸出額	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四
生地ノモノ	日本へ輸出額	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四
漂白シタルモノ	日本へ輸出額	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四
捺染若ハ染色シタルモノ又ハ染糸ヲ以テ織リタルモノ	日本へ輸出額	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三	三、九三三
毛織物	日本へ輸出額	二、六八〇	二、六八〇	二、六八〇	二、六八〇	二、六八〇	二、六八〇	二、六八〇	二、六八〇	二、六八〇	二、六八〇	二、六八〇
鉄	日本へ輸出額	七、九八〇	七、九八〇	七、九八〇	七、九八〇	七、九八〇	七、九八〇	七、九八〇	七、九八〇	七、九八〇	七、九八〇	七、九八〇
鉄	日本へ輸出額	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四	二、二八四
板(ブラクシート)厚八分以下ノモノ	日本へ輸出額	八、二五五	八、二五五	八、二五五	八、二五五	八、二五五	八、二五五	八、二五五	八、二五五	八、二五五	八、二五五	八、二五五
葉鉄	日本へ輸出額	六、六七一	六、六七一	六、六七一	六、六七一	六、六七一	六、六七一	六、六七一	六、六七一	六、六七一	六、六七一	六、六七一

電 鍍 板	計
八三、九三九、一八六	〃
六四〇、四九三	〃
九七、八八六、九三三	〃
五一、七三、五一	〃
一、三二一、六三、八五四	〃
三九五、二七、八九〇	〃
三四、三六八、九四〇	〃
三六、一六六、六三三	〃
七〇、五五六、八三〇	〃
二、〇七八、七三八	〃
四五、七七八、八三三	〃
九三、一八〇	〃
三三、二一、〇五七	〃
六、七、三八四	〃
五、四六八、八五〇	〃
二五、四八一	〃
〇、七六〇、五三〇	〃
〇、三〇、三三〇	〃
〇、五	〃
三三、〇三八、六〇一	〃
六、五〇五、七八〇	〃
一、五八七、四九六	〃
二〇、七〇、六五	〃
〇、三七〇、二五〇	〃
〇、一九〇、四〇	〃
〇、五〇	〃
〇、一〇	〃

備考 英國貿易統計ニ於テ協定品中銑鉄、葉鉄及電鍍板以外ノモノハ特掲セラレサルニ依リ其ノモノヲ包含スルモノノ統計ヲ採レリ

附記)

日本及印度間通商条約締結ニ関スル日英兩國
間交渉經過要領（通商局第一課木村書記生稿）

帝國ト英領印度トノ間ニ於ケル條約ニ関シテハ明治二十七年七月十六日倫敦ニ於テ調印シタル日英通商航海條約第十九条ノ規定ニ依リ英國政府ニ於テ右條約ノ批准交換ノ日ヨリ二ヶ年以内ニ其旨通告シタル時ハ該條約ヲ印度ニ適用スヘキコトトナリ居リタルガ右期限内竝ニ其後ノ取極ニ依リ延長シタル期限内ニ同政府ヨリ右適用方ニ関スル通知ニ接セサリシ為帝國ト印度トノ間ニハ何等條約上ノ關係存在セサリシ処明治三十二年二月在京英國公使ハ本国政府ノ訓令ニ依リ前記期限ノ經過シタルニ拘ラズ印度ニ該條約ヲ適用スルノ件ニ関シ兩國政府間ニ一ノ議定書ヲ締結シタキ趣提議シ來レリ右ニ関シ帝國外務省ハ帝國ト同地トノ貿易上其

シ一応閣議ニ附シタル処該議定書交換ニ関シ英國政府ハ印度内地ニ於ケル特殊ナル事情ニ鑑ミ

(一)印度政府ハ其ノ許諾ナクシテ外國人ガ印度内ニ住居、滞在、到来又ハ旅行スルコトヲ随意ニ禁止スルノ權利ヲ留保ス

(二)印度土著諸州ニ於テハ前記條約第一条(旅行住居ノ自由、身体財産ノ保護、出訴ノ自由、司法上ノ權利特典ヲ規定ス)及第三条(通商航海ノ自由、營業ノ自由、營業用家屋ノ所有、住居及商業用土地ノ供受、開港地河ニ往來ノ自由、通商航海ニ関スル税金取立等ヲ規定ス)ニ規定シタル日本國臣民ノ權利ハ大不列顛國歐洲臣民ニ對シ現ニ施行セラレ又ハ將來施行セラルヘキモノト同一ノ制限ニ服スヘキモノトス

(三)前記条約第十六条ニ規定セル領事官任命ノ權利ハ印度ニ於テハ印度政府ノ直轄地方ニ於ケル海港ノ都市ニ限ルモノトス

トノ三条件ヲ附セシコトヲ提議シタル為メ右ノ点ニ関シ枢密院其ノ他ニ反対ノ議アリ結局右条件附ニテハ本議定書締結ノ望ナカリシニ依リ三十三年十一月外務大臣ヨリ英國公使ニ右ノ事情ヲ内話シ本件ハ一時交渉ヲ打切ルコトトセリ然ルニ其後明治三十六年ニ至リ英國公使ハ再び本件ニ関スル往年ノ交渉ヲ復活繼續シタキ旨申込ミ來リ再び兩國政府間ノ問題ニ上リシモ閣議ノ結果帝國政府ノ立場トシテ急遽本議定書締結ノ要ヲ認メズト云フニ一致シ一方枢密院法制局等ノ反対ハ依然タルモノアリ旁々同年二月外務大臣ヨリ

英國公使ニ対シ前回同様ノ理由ニテ本件交渉ハ一先ゾ見合
トシタキ旨ヲ述ヘテ局ヲ結ヘリ、然ルニ同年八月英國政府
ハ本件ニ対スル帝國政府ノ態度遂ニ動カス可カラザルヲ知
リ茲ニ從來ノ提案タル条件ヲ附シテ日英通商航海條約ヲ印
度ニ適用セントスルノ希望ヲ断念シ更ニ帝國ト印度トノ間
ニ簡單ニシテ且暫定ノ性質ヲ有スル一ノ條約ヲ締結シ將來
帝國ニ輸入サルル印度製產品ト印度ニ輸入サルル帝國製產

四 日英通商航海條約改締關係一件 一七五

品トニハ均シク之ニ最低関稅ヲ課セシムル為、專ラ相互主義ニ遵拠スル一ノ條約ヲ結ビタキ旨提議シ來レリ

右ニ関シ帝國政府ハ慎重考量ノ結果近年日印兩國間貿易ノ著シキ發達及ヒ當時日英兩國間ニ存在セル良好ナル關係ニ鑑ミ之ニ応諾シテ該條約ヲ締結スルヲ得策ナリト認メタルト同時ニ將來我對外貿易ノ趨勢ニ応シ関稅ヲ變更スルノ自由ヲ保留スルコトモ亦必要ナリト認メタルヲ以テ本條約ニハ特ニ其有効期間ヲ明記セス双方共六ヶ月ノ予告ヲ以テ何時ニテモ該條約ヲ終了セシムルヲ得ルコトトシ右條約締結ヲ決意シ三十七年五月閣議決定ヲ經該條約ハ同年八月二十九日東京ニ於テ日英兩國間ニ調印セラレ翌三十八年三月十五日批准交換ヲ了セリ

（大正九年一月二十九日記）

日印通商条約ニ関シテハ日本外交文書第三十七卷第二冊ノ
事項十七及第三十八卷第二冊ノ事項二十三参照

註

一七五 六月二十五日
在英国永井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

歐洲大戰後ノ復興期間ニ対スル英國ノ通商政策ト最惠國待遇問題ニ関スル件

第二六一号

(七月三日接受)

客年往電第一〇二七号^(註1)ニ関シ「ウ」氏ハ瑞西ヨリ抗議ノ留保ヲ為ス旨回答(抗議未提出)アリシ外何レノ国ヨリモ申出ナク南米諸国ノ如キハ黙認ノ様子ナリト語り且戦後回復期間(客年第五〇七号^(註2)参照)ニ付テハ何等決シアラズト答ヘシニ付吉田ハ私見ニテハ若シ英国ノ公文ニ同意セハ英政府ヨリハ何等最惠待遇要求放棄ノ言明ナキニ他方相手国ニ於テ英政府一方ノ意思ニテ不定期間束縛セラルコトナルベク同盟国間差別的待遇ナシトモ限ラズ(対仏関係ニ付

テハ一昨年往電第一四七号御参照ヲ請フ)又英政府輸入禁止ヲ継続スルトモ何等抗議シ得サルコトナル虞アリト述ヘシニ「ウ」氏ハ尤ナリ実ハ内密ナルガ自分ハ右公文案ニ付提議シ得ザルコトナル虞アリ期間確定説ヲ持出セシモ政府ハ此点曖昧ニ附スルコトニ決セシ次第ニ付日本ヨリ此点問合セアラバ熟議ノ已ムナキ所以ヲ内話セリ(二十五日)

註1 日本外交文書大正七年第二冊五七文書

2 同右五三文書

事項五 日仏通商暫定取極締結一件

一七六 三月二十四日

在本邦仏国大使ヨリ
内田外務大臣宛

日仏通商航海条約廃棄問題ニ関スル仏国ノ希望ニ対シ日本側ノ為シタル決定ニ付問合並附
属議定書ハ本年四月十日ヨリ起算シ廃棄ノ旨
通告ノ件

Ambassade Tokyo, le 24 Mars, 1919

de la

République Française

au

Japon

No. 20

Monsieur le Vicomte,

Par sa lettre N° 86 du 4 Septembre dernier, mon

prédécesseur avait fait connaître au Ministère Impérial des Affaires Etrangères le désir du Gouvernement de la République de dénoncer avant le 10 Septembre 1919 la

五 日仏通商暫定取極締結一件 一七六

convention commerciale du 19 Août 1911 entre la France et le Japon. A la date du 18 Septembre 1918, Son Excellence le Baron Goto a bien voulu répondre que la question serait soumise sans retard aux Ministères intéressés.

Je serais heureux de savoir si le Gouvernement Impérial a pris sur ce point une décision conforme aux desiderata de mon Gouvernement. Je crois devoir rap-peler à cette occasion à Votre Excellence qu'au cas où un accueil favorable aurait été fait à la demande du Gouvernement Français, l'accord dénoncé serait prorogé de 3 mois en 3 mois jusqu'à son remplacement par une autre convention.

Dans tous les cas j'ai l'honneur de notifier à Votre Excellence la dénonciation, à dater du 10 Avril prochain, du protocole annexe à la Convention précitée, par application des articles 3 et 4 du dit protocole.

一四九